

令和4（2022）年度

地域学校協働活動推進員養成研修④ 実施報告

実施日：令和4（2022）年9月16日（金）

本研修は、「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」事業の一環として行われます。地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。

第4回は、受講者が地域学校協働活動を創出していくために求められる「地域づくり」の考え方の理解を深めることをねらいとして研修を行いました。

講話

「地域全体で子どもの成長を支えるために

～子どもを取り巻く現状と課題～」

栃木市地域政策課 社会教育指導員 鈴木 廣志 氏

鈴木氏は、小中学校の教員、教育委員会の社会教育主事として勤務され、栃木市立大平中央小学校の校長を最後に御退職されました。現在は、令和元年から文部科学省より委嘱されておりますCSマイスター、栃木市地域政策課の社会教育指導員として活躍されています。

学校と地域の連携・協働の在り方について、幅広く研究、実践に取り組まれており、学校の立場、地域の立場など、様々な視点から自らの御経験も交えお話しいただきました。



前半は、学校、そして子どもの現状についてお話しいただきました。特に、新型コロナウイルス感染拡大の状況における学校や子ども、家庭の変化について取り上げ、課題があるにもかかわらずそれらが「コロナ禍」により見えづらくなっていることについての指摘がありました。また、今まで築き上げてきた学校・家庭・地域の中の様々なつながりが分断されていることにふれ、再びつながる必要性を強調されました。そこで、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーターとしての役割を確認しました。



後半は、鈴木氏の御経験から様々な事例の紹介があり、受講者は地域の中にあるヒト・コト・モノとどのようなつながりがあり、どう関わっていけばよいか考える機会になりました。コーディネートにつながることを、自らの体験を基にお話しいただきました。

最後に、「地域のよさを生かし、未来につなぐ」という言葉があり、コーディネートに向けた心構えについて話されました。受講者それぞれが、地域の中のつながりづくりにどうアプローチしていくか、思いをかけめぐらせていたようです。

講話・演習

「地域づくりにつながる活動について考えよう」

とちぎ市民協働研究会 事務局長 土崎 雄祐 氏

土崎氏は、特定非営利活動法人ま・わ・た事務局長や宇都宮大学特任助教、茨城大学講師などを経て、現在、宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンターコーディネーターや一般社団法人とちぎ市民協働研究会専務理事兼事務局長として活躍されています。

災害支援活動の情報共有の場づくりや高校生による地域づくりに関する調査研究に注力されており、たくさんの地域活動の経験に基づく知見からお話いただきました。



地域資源に着目し、学校や地域にある活動をリノベーションしていく考え方について、演習を通して学びました。

始めに、地域づくりは暮らしの中で人とのつながりや知人・友人を増やすことであること、つながりづくりを進めていくことが重要であることを確認しました。特に、人が集まって語り合うことから始めていくことが大切であると話されました。

その上で、地域づくりにつながりそうな地域のヒト・コト・モノを書き出すワークを通して、地域資源の確認をしました。今まで意識しなかった地域のよさに気づきがあったようでした。次に、地域づくりにつながりそうな身近な活動を書き出し、そのリノベーションを考えました。受講者が考えた案には今までの研修で学んだ成果が垣間見え、地域学校協働活動にする、充実させる視点が養われてきたようです。

自分だけの視点で地域を見ていくと、地域の特性や個性を十分に生かした活動につなげられない場合もあります。演習で学んだことを生かして、地域を見つめ直し、受講者にはそれぞれの地域・学校の地域学校協働活動を充実してもらえたらと思います。

【受講者の感想から】

- 地域学校協働活動推進員としての役割を考え、気づく機会となった。
コロナ禍で離れた「力」をつなぎ直す仕事に力を向けたいと感じた。
- 学校とコーディネーターのつながりだけでなく、公民館、自治会、民生委員など、視野を広げて地域とのつながりを持って活動すべきだと思った。
- 「学校を核とした地域づくり」を目指して、公民館や地域コーディネーターが何をやらなければいけないか、何ができるか、大変勉強になった。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp